

沼城小学校旧中央校舎見学会 実施報告書 ～ 明治の「地域の宝」を未来へつなぐ第一歩 ～

令和8年(2026年)7月
山口県建築士会 新南陽支部
山崎一夫

1. 概要

明治19年(1886年)の建設から、昭和27年に現在地へ移築され、140年を迎えた木造二階建ての学校建築であり、今も須々万(すすま)の地に奇跡的に現存する「沼城小学校 旧中央校舎」の見学会を、地域の未来を考える契機として以下の通り実施しました。

- ・日時：令和8年(2026年)6月21日(日) 10:00 ～ 14:00
- ・内容：10:00～たてものがたり(歴史的経緯と建築的価値の解説)
10:30～自由見学(1階、2階内部及び外部の公開)
- ・会場：沼城小学校旧中央校舎
山口県周南市須々万本郷711 河村家敷地内(旧須々万幼稚園前)
- ・主催：沼城小学校旧中央校舎の未来を考える会
山口県建築士会 新南陽支部・徳山支部
- ・協力：河村家、地元自治会、山口県建築士会ヘリテージマネージャー有志
- ・後援：周南市教育委員会
- ・来場者数：100名以上(内スタッフ20名)

2. 実施目的

本見学会は、長年私邸や樹木に遮られ地域住民からも忘れ去られていた歴史的校舎の価値と建築的特徴を広く紹介し、地域資源としての保存及び活用に向けた基礎資料の共有と、登録有形文化財への認定を視野に入れた保存活用の機運を高めることを目的として開催されました。

3. 当日の様子と反響

当日は、地域住民をはじめ、建築・歴史の専門家、学生、文化財・まちづくり関係者など幅広い層が来場しました。

午前10時からの「たてものがたり」では、河村氏(未来を考える会)と山崎(建築士会)の2名により、明治19年に建設(旧沼城小跡地)され、昭和27年の新校舎建設に伴う移築(河村家)の歴史や、当時の須々万村・竹村村長が強い思いを持って解体移築を主導したという数奇な運命が解説され、参加者は興味深く聞き入っていました。

自由見学では、1階の踏み板天井や中央にある一間幅の階段、2階の杉板竿縁天井などを含め、明治期の小学校建築の意匠が色濃く残る内部を公開しました。

高齢の地域住民からは「昔通った懐かしい校舎が、まさかこんな形で残っていたとは」「よく残してくれた」と驚きと感動の声が上がりました。



見学会風景



たてものがたり会場風景



たてものがたり（パネル説明）



たてものがたり（意見交換会）



見学会風景



報道取材インタビュー

4. 建築的特徴

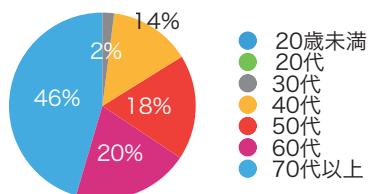
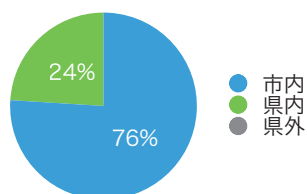
建築士会新南陽支部の調査（令和7年6月21日実施）による、本建物の主な建築的特徴（概略のみ、詳細は別報告書へ記載）は以下の通りです。

- ・構造：木造二階建て、建築面積142㎡、延べ面積264㎡。
- ・意匠：寄棟造（江津瓦葺き、勾配6寸）、玄関屋根は切妻造。玄関屋根瓦には「菊水紋様」や「鳩の棟飾り」が施され、車寄せには舟肘木や破風板両端に透かし彫りの細工が見られます。
- ・工法：和小屋組（丸太材、京呂組）で、軒桁に梁丸太が「かぶと蟻掛け」で取り付く伝統的工法。通し柱は7寸角、管柱は6寸角、柱間は6尺3寸となっています。
- ・痕跡：西側壁面には、明治40年の西校舎焼失時の貫い火と推察される延焼跡（柱を含む）が今も残っており、校舎が辿った歴史を雄弁に物語っています。

5. アンケート集計結果と分析（回答数：46名）

(1) 回答者属性：地域に根差したシニア層が中心

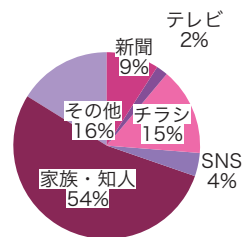
- ・お住まい：市内 76% (35名) / 県内 24% (11名) / 県外 0% (0名)
 - ・年齢層：20歳未満 0% / 20代 0% / 30代 2% / 40代 14% / 50代 18% / 60代 20% / 70代以上 46%
- ※来場者の約4分の3が周南市内からであり、かつ60代以上が全体の約7割を占めています。かつての卒業生や、地域に長く暮らすシニア層の関心の高さが伺えます。



(2) 認知経路：口コミと地域コミュニティの強み

・媒体：新聞 9%／テレビ 2%／チラシ 15%／SNS 4%／家族・知人からの紹介 54%／その他 16%

※家族・知人からの紹介が5割以上を占め、須々万地域の強固なコミュニティや人づてのネットワークによって本見学会が広く伝播したことが分かります。

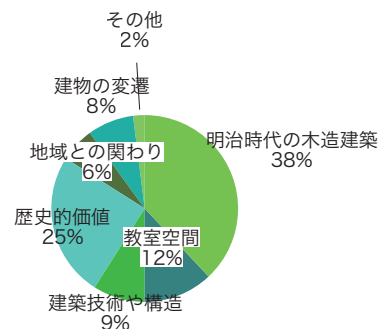
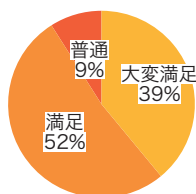


(3) 見学会の満足度：9割以上が評価

・満足度：大変満足 39%／満足 52%／普通 9%／やや不満 0%／不満 0%

・特に印象に残ったもの（複数選択可）：明治時代の木造建築 38%／教室空間 12%／建築技術や構造 9%／歴史的価値 25%／地域との関わり 6%／建物の変遷 8%／その他 2%

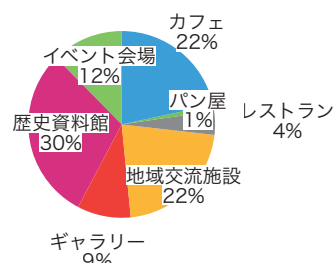
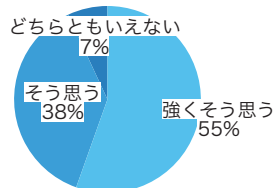
※91%が「満足」と回答。明治時代の木造建築であることや歴史的価値ある建物として、参加者の印象に残ったことが、数値からも示されました。



(4) 保存への意識：驚異の「93%」が保存を熱望

・この建物を保存すべきか：強く思う 55%／そう思う 38%／どちらともいえない 7%／あまり思わない 0%／思わない 0%

※「強く思う」「そう思う」を合わせると来場者の93%が保存を希望するという、極めて強い民意が示されました。



(5) 望まれる今後の活用方法（複数選択可）

・どのような活用が望ましいか：カフェ 22%／パン屋 1%／レストラン 4%／地域交流施設 22%／ギャラリー 9%／歴史資料館 30%／宿泊施設 0%／イベント会場 12%／その他 0%

※今後の利活用アイデアとしては、「歴史資料館（30%）」が最も多く、次いで「カフェ（22%）」「地域交流施設（22%）」が並びました。単なる保存施設として凍結するのではなく、歴史を学びながら地域住民や観光客が気軽に集まれる複合コミュニティ空間への転換が期待されています。

6. 参加者の主な意見・要望（自由記述より）

- ・これ以上朽ちてしまう前に、何とか補修してほしい。外側の樹木の伐採も必要。
- ・大変懐かしく、嬉しく思いました。
- ・旧中央校舎の価値が見直されて、今後保存されていくことを望みます。
- ・維持するのは労力、資金が大変なので、行政・寄付が必要かと思います。
- ・当時の校舎がそのまま残っており、県内でも貴重な建物なので大事にしてほしい。
- ・すごいですね。こんな立派なものが残っているなんて、大切にしたいですね。
- ・資金援助する方と活動参加の人、若い方に興味を持ってもらいたい。
- ・地域外へも発信、交流して、ステップ毎でも魅力を高めていって欲しい。
- ・魅力あるカフェが出来れば良いと思うが、継続、発展させるには、人々の熱意と工夫が必要。
- ・多くの方が関わって活動されているのに感心しました。

7. 現状の課題及び今後の展開と提言

見学会により保存への機運が高まった一方、深刻な課題と今後の方向性が浮き彫りとなりました。

【現状の課題】

- ・経年劣化の進行 : 屋根瓦の一部落下や外壁の剥落、屋根の損傷が見られ、所有者が東京在住のため、地元親族による日常管理だけでは経済的・技術的な対応が限界を迎えています。
- ・財政的支援の必要性: 過去(昭和54年頃や令和2年頃)にも旧徳山市や周南市へ保存管理の請願や相談が行われたものの、財政的理由などから行政主導の保存は頓挫してきた経緯があります。

【今後の展開と提言】

I. 登録有形文化財への申請検討

明治期の学校建築として全国的にも稀有な存在であるため、所有者の意向を最優先に確認しながら、文化財登録に向けた具体的な手続きの検討に入ります。

II. 官民連携による維持管理体制の構築

アンケート回答者の93%が保存を望んでいるというこの結果を「地域の声」として周南市教育委員会をはじめとする関係行政機関へ公式に届け、行政・地元自治会・保存会・建築士会が連携した持続可能な受け皿組織の構築を図ります。

III. 資金調達と若者巻き込み型のイベント継続

深刻化する屋根瓦のズレや落下、外壁剥落等の修繕資金の確保に向けクラウドファンディング等の活用を検討し、今回のアンケートで要望の多かった「歴史資料館」「カフェ」「イベント」といった要素を実験的に取り入れた第二弾の企画を立案し、次世代（若い層）への認知の拡大と参加を促します。

8. 結びに

本見学会を通じ、地域住民をはじめ多くの来場者から本建物の保存を望む強い意向が示されました。

今後は、別報告書及び本アンケート結果を基礎資料として、関係機関と連携しながら保存・活用に向けた具体的な取組を進めてまいります。

*見学会スタッフ（敬称略）

- ・沼城小学校旧中央校舎の未来を考える会：河村雅典（代表）、国重義久、国重幸子、江崎加代子、伊東正一、有馬俊雅、岸村敬士、藤井崇史、堀町晴夫、竹本隆一、津野地香苗、佐野英子、河村幸代
- ・(一社)山口県建築士会 新南陽支部 : 田畑和男、小野稔、戸倉幸夫、山崎一夫（文責）
- ・(一社)山口県建築士会 徳山支部 青年部 : 奥西章益、野村幸弘、梅木遼大

以上